

ほっとケーキ だより

26号

2021年
5月10日

発行：
親の会「ほっとケーキ」

親の会活動日： 月1回 第二水曜日14:00～16:00

フリースペース開催日： 毎週月曜日・水曜日12:30～16:30

開催場所：いずれも佐賀市青少年センター 佐賀市松原2-2-27バルーンミュージアム3階

郵便物送付先：〒840-0826 佐賀市白山2丁目1-12 佐賀商工ビル7階 市民活動プラザ内レター
ケースNo. 24 親の会「ほっとケーキ」

電話：080-4310-3277 E-mail: hotcake06@hotmail.co.jp

HP: <https://oyanokaihotcake.jimdofree.com/>



新緑の候、皆様お元気でお過ごしのことと思います。

昨年度はコロナ禍のため、親の会やフリースペースを閉じざるを得ませんでした。今年度はどうなるだろうと思っていたら、想像を超えた状況になりつつあるようです。

そんな世の中の状況ですが、フリースペースに来ている子どもたちは、日々成長が見られます。

中学校にはほとんど通わず4年間定時制高校に通い、今年、県外の企業に就職した若者や、義務過程を終えて通信制高校に通ったり、仕事を始めた子どもなど様々ですが、私たちの眼には皆輝いて見えます。

このように書くと動きがないといけないと捉える方もいらっしゃるかもしれませんが、私はそれぞれが“自分のペースで前に進むもよし、留まるもよし”と考えています。ただ、子どもたちは学校に行く・行かないではなく、安心して過ごせる場（家や居場所など）があれば、自分で考えて動き出すなあと、今は思います。しかし、私の場合は、子どもの将来が気になって親の思いを優先させ、家を安心して過ごせる場に出来ない時期もありました。

ある日の親の会で長く参加されてた方（不登校で引きこもっている子どもの親）が、「子どもとしてではなく、同居人と思っている」と言われたのが、私はとても印象に残りました。子どもと暮らしていく中、紆余曲折を経て、そこに至るまで深く悩まれたと思いますが、親も自分の思いを誰かに共有してもらうことで、子どもと適度に距離をとれるようになられたのかもしれない。

不登校や引きこもりのお子さんをお持ちの方は、親子共々不安な気持ちでお過ごしのことと思います。親の会に参加してその想いを共有してみませんか。一人で悩まないで、親の会に気軽にお出かけください。

親の会「ほっとケーキ」代表 山口由美子

フリースペースの様子から

フリースペースは2020年4月～8月は、コロナ禍ということで、お休みしていました。今までにない長期のお休みとなったので、休み明けにはもう誰も来ないかとも思いましたが、しっかり忘れずに、今までのメンバーが来てくれました。

「居場所」との付き合い、距離感は一それぞれだとは思いますが、個人的には、無くてはならない場所というより、あったらふらっと来る、なんとなく過ごす場所という、在り方が何か良いような気がしています。もちろんそれぞれに、悩みや苦しみがあったりしますが、来ることで何かがすぐ解決するというより、ゆっくりとした過ごしの中で、難しく絡まったものが、だんだんと解けていく、コチコチに固まっていたものが、いつのまにか柔らかくプニプニしたものになっていくような、そんなものをスタッフをやっている中で感じます。

どこかに通うこと、通わせることで、分かりやすい効果や成果をつい期待してしましますが、何かに役に立つわけではないし、無くてもいいんだけど、あったら行く。そんな場所でも、それぞれに何か残っていくものがあるかもしれません。

スタッフ 森田義也



2021年3月22日 遠足で、みんなで森林公園に行きました。風が強く肌寒い感じもありましたが、和気あいあい、なごやかな雰囲気ですっきりと過ごしました。

編集後記

4月末に久しぶりにフリースペースで過ごしました。いつもの和室にはそれぞれ楽しそうに遊ぶ子ども達。調理室からはお菓子が焼ける香りが漂ってきます。おやつは鯉のぼりパイでした。大きい子ども達は横目でチラリ、パクパク。大人になった端午の節句に思い出してくれるかな…?(さ)



ごはんできました！



待ち合わせのショッピングセンターの店先で、人の流れを見ていました。マスクをしていない人を探したのですが、ひとりもいません。改めてすごいことと思いました。感染が怖くてという人がほとんどですが、人の目を気にしてという人もいるかも知れません。

コロナの状況がなかったら、マスクをせずにおしゃべりをして、とんでもなく、飛沫が飛ぶことなど、重く考えもしなかったでしょう。気にすることを学んだ私たちは、マスクが要らなくなっても、平気でいられるだろうかなんて考えています。

さて、月曜日のフリースペースの食堂ですが、感染に極力注意をはらいながら、安くておいしいものを追求してランチを作っています。チキンカツ、唐揚げ、そばろ丼、中華丼、シシリアンライス、豆腐ハンバーグ、カレー、タコライスなどが、メニューに並びました。

水曜日には、時々お菓子を作ります。タコ焼き、ホットケーキ、アップルパイ、モンブラン、ハロウィーンにはかぼちゃピザ、クリスマスにはショートケーキ、バレンタインにはチョコ味マドレーヌ、ひな祭りには三色パフェ、子どもの日には鯉のパイなども作りました。



調理担当の私事になりますが、スクールソーシャルワーカーの仕事をこの度引退しました。

ほっとケーキでは、13年前この事業が始まる以前から、アメリカに研究に行かれ、日本でのスクールソーシャルワーカー普及に貢献された、山下英三郎さんの講演会を何度も開いていました。当時は、この制度が佐賀県の学校に取り入れられるのは難しいだろうと思っていたので、文科省の事業として始まった際にはとてもびっくりしました。

今ではすっかり定着していますが、仕事を通じて親の会やフリースペース利用につなぎ、元気に過ごした子どもが何人もいました。本当にこの場があったことに感謝をしています。

ゲシュタルトの祈り

私は私のために生きる。あなたはあなたのために生きる。
私はあなたの期待に応えるために、この世に生きているわけじゃない。
そして、あなたは私の期待に応えるために、この世にいるわけじゃない。
私は、私。あなたはあなた。
でも、偶然が私たちを出合わせるなら、それは素敵なことだ。
それは出会えなくても、それもまた同じように素敵なことだ。

フレデリック・バールズ
ドイツ系ユダヤ人 精神科医